



Title	日中における無生物主語他動詞文の使用実態調査：レジスターとジャンルに注目して
Author(s)	麻, 子軒
Citation	現代日本語研究. 2024, 15, p. 43-60
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/98462
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日中における無生物主語他動詞文の使用実態調査 —レジスターとジャンルに注目して—

Usage of Inanimate Subject Transitive Verb Sentences in Japanese and
Chinese: Focusing on Register and Genre

麻 子軒
MA Tzu-Hsuan

キーワード 無生物主語, 言語使用域, 日中対照, コレスポンデンス分析

要 旨

「鍵がドアを開けた」のような無生物主語他動詞文のレジスターとジャンルにおける使用実態を日本語と中国語で比較した。その結果, レジスターについて, 日本語では「教科書」における科学原理の説明が目立つのに対し, 中国語では「評論」に見られる文学描写と「新聞」での社会記事が顕著であることがわかった。ジャンルに関して, 日中ともに「文学」に用例が出現しやすく, 「哲学」に出現しにくいことが観察された。さらに, コレスポンデンス分析により, ①出現環境が「文学的か否か」が両言語の当該構文の成立に影響を与える共通の要因であること, ②日本語では「科学的か否か」, 中国語では「社会的か否か」がそれぞれ個別の要因として存在すること, 以上の2点が判明した。

1. はじめに

「鍵がドアを開けた」という表現のように, 無生物名詞が主体となって何らかの行為を行う文(以下, 「無生物主語他動詞文」とする)は, 日本語では文脈によって不自然に感じられることがあり, その成立条件が限定的であると言われている。一方, 中国語など他の言語では, この種の構文が比較的容易に成り立つとされている。本稿では, 従来先行研究で言及されてきた「名詞句階層」や「他動性」といった文の構成要素からの観点ではなく, むしろレジスターと

ジャンルという文の出現環境による要因に注目し、日本語と中国語での無生物主語他動詞文の使用実態を調査し、その違いを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2. 1. 無生物主語他動詞文の成立要因

外山（1973）、金田一（1981）、石綿・高田（1990）の研究によると、無生物名詞が行為者として機能する文の成立は、日本語では英語などの他言語に比べて困難であるとされている。

しかし、角田（1991）は「名詞句階層」を用いて、特定の条件下では、日本語でも無生物主語他動詞文が成立可能であることを示している。名詞句階層によると、階層の上位に位置する名詞は行為の主体となりやすく、下位に位置する名詞は行為の対象となりやすい。この理論に基づき、自然の力など比較的階層上位にある無生物名詞であれば、「大雨が交通を止めた」のように、無生物主語他動詞文として問題なく機能することがあり得る。これは、当該構文の成立において「名詞句階層」が重要な役割を果たしていることを意味している。

2. 2. 無生物主語他動詞文の日中対照

無生物主語他動詞文に関する日中対照研究は、熊（2009）によって初めて行われた。熊は、「名詞句階層」だけでは説明できない事例を提示し、角田（1991）の問題点を指摘した上で、動詞の「他動性」の観点から説明を試みた。その結果、両言語の無生物主語他動詞文が外見上は他動詞文の形式を取っているものの、実際には述語の他動性が低いため、それほど強い働きかけがない無生物名詞でも主語になり得ることが明らかにされた。熊はさらに、「道具名詞構文」「原因名詞構文」「身体名詞構文」を中心に日中の違いを詳細に分析したが、主に名詞に焦点を当て、「他動性」との整合性については深入りしなかった。

この問題点を解決するために、麻（2016, 2017, 2018）は同時に名詞と動詞の関係を扱える連語論的アプローチを採用し、日本語と中国語における無生物主語他動詞文の成立メカニズムを解明する試みを行った。具体的に、対格名詞が物名詞である状況下で、動詞の「再帰性」と「受影性」が両言語の無生物主語他動詞文の成立に共通して寄与していること、そして各動詞のタイプと結びつ

きやすい名詞のタイプが存在することが、一部の結論として挙げられている。

2. 3. 先行研究の問題点

先行研究では、角田（1991）による「名詞句階層」、熊（2009）による「他動性」、そして麻（2016, 2017, 2018）による「連語論的アプローチ」が、無生物主語他動詞文の研究に大きく寄与してきた。しかし、これらの研究は、文の構成要素である名詞と動詞に主に焦点を当てており、文が現れる環境などの影響を含むその他の要因には注目していない。本稿では、これまでの研究とは異なり、レジスターとジャンルという文の出現環境の観点から日中の無生物主語他動詞文の使用実態を検討する。

3. 調査概要

3. 1. 調査資料

調査資料として、麻（2016）を参考にし、日本語には「現代日本語書き言葉均衡コーパス Ver1.1（以下、「BCCWJ」と略す）」を、中国語には「台湾中央研究院現代漢語平衡語料庫 Ver3.0（以下、「SINICA」と略す）」を使用する。これらのコーパスは、本稿で焦点を当てるレジスターとジャンルに基づいてデータが区分されており、調査に適している。各分類の詳細は第4節で述べられる。なお、本稿では、出現環境を網羅的に観察することを目的としているため、調査時にはサブコーパスを限定せず、抽出した全ての用例を分析対象に含める。

3. 2. 抽出方法

用例の抽出は、自作のPerlプログラムを用いて行う。抽出条件において、日本語では「鍵がドアを開ける」のような、「X（主格名詞）+ガ（格助詞）+Y（対格名詞）+ヲ（格助詞）+Z（動詞）」という最も基本的な構文を対象とする。中国語でも、「鑰匙打開了門」のような、「X（主格名詞）+Z（動詞）+Y（対格名詞）」というシンプルな構文に絞り込む。ただ、Xに修飾成分が付加されている場合や、Xが複数の名詞から成る場合は対象外とする。さらに、Zが他動詞でない場合も除外する。なお、今回は紙幅の都合により調査範囲を具体的な描写に限定しているため、Yが物名詞である例文のみを抽出対象とする。

4. 分析の枠組み

4. 1. 無生物主語に対する認定と分類

本稿における無生物は、『分類語彙表』（国立国語研究所 2004）の中項目に従い、「抽象的関係」「人間活動—精神及び行為」「生産物及び用具」「自然物及び自然現象」に分類されるものとする。ただし、「自然物及び自然現象」の下位分類である「生物」「動物」は有生物として区分する。中国語には『分類語彙表』に相当するものがないため、無生物の定義は日本語と同様の基準で行う。

また、無生物主語他動詞文の分類においては、理想的には名詞と動詞の組み合わせを基にした分類が望ましいが、本稿では出現環境という第三の変数も考慮する必要があるため、今回は主語の分類を優先し、主語のタイプと出現環境との関連性に注目することとする。無生物主語に対する分類については、麻(2016)の分類を参考にし、「機械」「自然物」「内在機能」「身体」「植物」「道具」「空間存在」に区分する。ここでは日本語の例のみを示すが、中国語においても同様の分類が適用される。

- ・【機械】動力源を持ち、複数の部品によって構成されるもの

例：扇風機が首を振る／機関車が客車を引っ張る

- ・【自然物】自然の力によるもの

例：雨が顔を打つ／風が窓を叩く／太陽が顔を直射する

- ・【内在機能】外部に変化を引き起こす内在的性質を持つもの

例：イオン水が臭気を消す／汗がシャツを濡らす／洗剤が汚れを落とす

- ・【身体】身体そのもの、またはその一部に属するもの

例：心臓が血液を送り出す／腕が鍵盤を弾く／拳がドアを叩く

- ・【植物】植物そのもの、またはその一部に属するもの

例：木が葉を落とす／果樹が実を結ぶ／朝顔が花を開く

- ・【道具】人間が用いる道具類に属するもの

例：筆が紙を押さえる／メスが皮膚を裂く／注射針が胃壁を貫く

- ・【空間存在】物理的な存在が空間を占めるもの

例：怪石が道を塞ぐ／黒雲が空を覆う／樹木が日差しを遮る

4. 2. レジスターに対する分類

BCCWJにおいては、「出版 SC」「図書館 SC」「特定目的 SC」という3つのサブコーパスに分類されている。「出版 SC」には「書籍」「雑誌」「新聞」が、「図書館 SC」には「書籍」が、「特定目的 SC」には「白書」「ベストセラー」「広報紙」「法律」「国会会議録」「教科書」「韻文」「Yahoo!知恵袋」「Yahoo!ブログ」というレジスターが含まれ、タグ情報も付与されている。

SINICAにおいては、BCCWJのようなサブコーパスには分かれていないものの、すべてのデータには「一般図書」「一般雑誌」「新聞」「学術論文」「評論」「教科書」「視聴媒体」「その他」「演説」「会話インタビュー」「実用書」というレジスターに関するタグ情報が付与されている¹⁾。

本稿では、レジスターの分類に上述したタグ情報を使用する。日中では若干異なるが、後に多変量解析で変数を圧縮するため、比較が可能であると判断した。

4. 3. ジャンルに対する分類

BCCWJでは、レジスターによってジャンルの分類方法が異なるが、後述するように、日本語の場合、ジャンルに対する考察は特に「書籍」というレジスターに限定して行う。当該レジスターは日本十進分類法に基づいてジャンルが分類されており、具体的に「総記」「哲学」「歴史」「社会科学」「自然科学」「技術・工学」「産業」「芸術・美術」「言語」「文学」に細分されている。

一方、SINICAではレジスターに関係なく、全データに対して統一されたジャンル分類が行われており、具体的に「科学」「社会」「哲学」「文学」「芸術」「生活」が設定されている²⁾。

ジャンルの分類も上述したBCCWJとSINICAのタグ項目に基づいて行う。レジスターと同様に、多変量解析で処理されるため、比較に問題はないと考えられる。

5. 出現レジスター

本節では、日本語と中国語における無生物主語他動詞文が出現するレジスターの分布状況についてそれぞれ検討する。

5. 1. 日本語

BCCWJのレジスターにおける分布を粗頻度で集計した結果を表1に示す³⁾。

表1：BCCWJのレジスターにおける無生物主語他動詞文の分布（粗頻度）

	書籍 (出版 SC)	雑誌	新聞	書籍 (図書館 SC)	ベストセラー	広報紙	法律	教科書	韻文	Yahoo!知恵袋	Yahoo!ブログ	総計
機械	34	2	0	40	5	1	1	1	0	3	7	94
空間存在	55	12	2	57	3	1	0	4	0	6	5	145
自然物	34	6	0	58	1	0	0	4	0	3	8	114
植物	10	0	0	16	2	1	0	4	0	2	5	40
身体	24	1	1	22	1	0	0	0	0	5	1	55
道具	37	1	1	47	4	0	0	2	1	2	0	95
内在機能	24	8	0	26	2	1	1	5	0	8	5	80
総計	218	30	4	266	18	4	2	20	1	29	31	623

まず、主格名詞の分布に焦点を当てる。全体的に見て、すべてのレジスターにおいて「植物」の出現が少なく、「空間存在」の出現が多いことが観察される。次に、レジスターの分布に注目すると、「書籍（出版 SC）」「書籍（図書館 SC）」が顕著に多いことが明らかである。ただし、これは本来レジスターの規模が異なることに起因する可能性があるため、調整頻度の検討も必要であろう。図1の棒グラフは、BCCWJのウェブサイトで公開された各サブコーパスの長単位語数を基に計算した100万語あたりの用例数を示したものである。

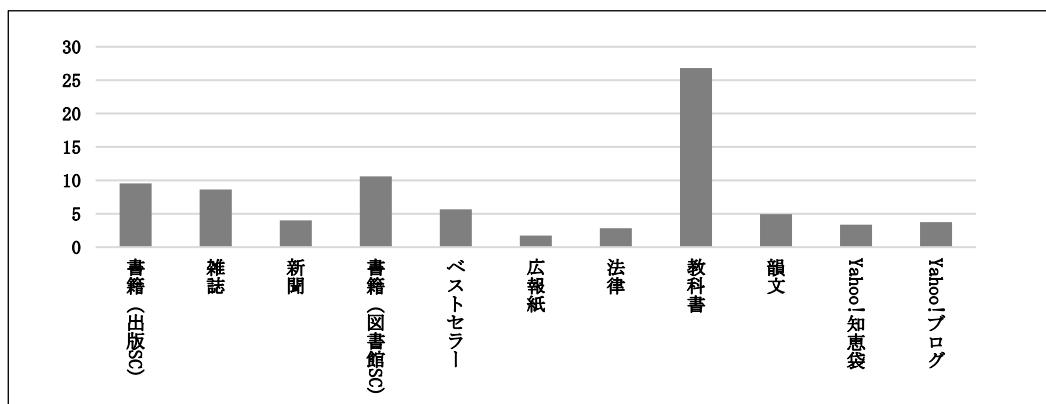


図1：BCCWJのレジスターにおける100万語あたりの用例数

表1とは異なり、無生物主語他動詞文は「教科書」というレジスターに最も出現しやすいことがわかる。実際の用例は(1)～(3)に示されており、科学の原理に関する説明が目立つ。これは、当該分野ではミクロな場面の描写が多く、無生物名詞を取り立てる必要があるためと考えられる。なお、主格名詞の内訳については、「空間存在」「自然物」「植物」「内在機能」のような、理科の分野に出現しやすいものが大部分を占めている。

- (1) 放射線が半導体を貫くとき、その道すじにそって電子とホールの対が発生する。(『高等学校 物理II』)
- (2) 植物が二酸化炭素をとり入れて酸素を出しているか、調べよう。(『新編新しい理科 6上』)
- (3) 水中で音を聞くことができるのも、水が音を伝えるからである。(『新しい科学 1分野上』)

「Yahoo!知恵袋」もその性質上、知識を共有する文章が多く、(4)(5)のように、「教科書」と性質が近いミクロな描写の用例が目立つことに特徴がある。

- (4) 対策としては、シャンプー剤がパーマ液を落としますので、今日2.3回洗ってください。(「Yahoo!知恵袋」健康、美容とファッション)
- (5) 桐箪笥等木製の家具は水を使うと家具が水分を吸い込んで木が増えてしまい引き出しの開け閉めが大変になるので水拭きは避けて下さい。(「Yahoo!知恵袋」暮らしと生活ガイド)

一方、同じウェブの特性を有する「Yahoo!ブログ」では(6)(7)のように、日常生活に関する描写が増える。これらは日常生活の風景を一場面切り取った描写であるため、無生物名詞が主語として注目されることが多いと考えられる。特に、「自然物」「植物」が主語となる例文が多く見られた。

- (6) 朝日が作業小屋を照らしています。猫達も作業小屋を見守っています。(「Yahoo!ブログ」地域)
- (7) 冬に向かって寂しくなる秋の庭です。チューリップが芽を出したら、また写真にしますね。(「Yahoo!ブログ」家庭と住まい)

「雑誌」も比較的多くの用例が見られるレジスターではあるが、その内容は広範にわたっており、特定の描写と結びつきやすいわけではない。「韻文」については、調整頻度での数値が4.9となっているが、粗頻度では用例が1例のみ

であり、説明は割愛する。「新聞」「広報紙」「法律」に関しては粗頻度も調整頻度も低く、無生物主語他動詞文が出現しにくいレジスターだと思われるため、ここでは取り上げない。調整頻度が比較的高い「書籍（出版 SC）」「書籍（図書館 SC）」「ベストセラー」はいずれも書籍類に分類されるため、詳細は第6節のジャンルの考察で説明する。

5. 2. 中国語

次に、中国語の用例について検討する。表2には、SINICAのレジスターにおける分布を粗頻度で集計した結果が示されている⁴⁾。

表2：SINICAのレジスターにおける無生物主語他動詞文の分布（粗頻度）

	一般図書	一般雑誌	新聞	学術論文	評論	教科書	視聴媒体	総計
機械	2	4	23	0	1	1	3	34
空間存在	5	18	31	1	0	8	8	72
自然物	4	6	27	0	1	4	9	51
植物	1	2	9	0	0	3	1	16
身体	10	23	40	1	2	0	22	99
道具	3	12	27	0	2	1	7	52
内在機能	1	12	13	0	0	2	6	34
総計	26	77	170	2	6	19	56	356

主格名詞の全体的な分布を見ると、「身体」が「教科書」というレジスターを除き、比較的多くの用例数を占めている。最も少いのは「植物」であり、これは日本語と同じ傾向である。次に、レジスターの分布に焦点を当てると、「新聞」が圧倒的な用例数を示しており、最も少いのは「学術論文」である。ここでも収録語数の規模が影響を及ぼす可能性があるため、調整頻度の検討を行う。図2の棒グラフには、SINICAのマニュアルに記された各レジスターの収録語数に基づいて計算された100万語あたりの用例数が示されている。

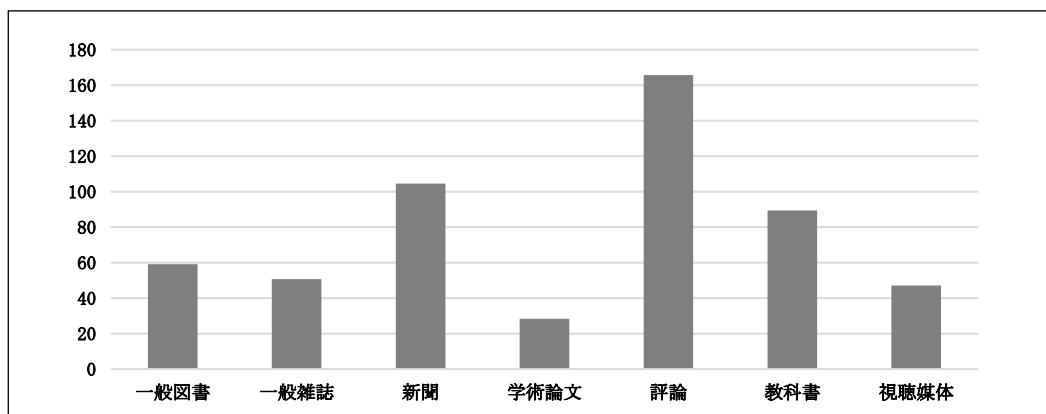


図2 : SINICAのレジスターにおける100万語あたりの用例数

表2とは若干順位が異なり、無生物主語他動詞文は「評論」に最も出現しやすく、次いで「新聞」「教科書」「一般図書」「一般雑誌」「視聴媒体」といった順になっている。「評論」の用例は(8)(9)に示されているように、文学作品の引用が主に見られる。これらは、シーンに登場する物や体の一部に焦点を当てた描写が多く、無生物名詞を主語として使いやすい状況であるためと思われる。なお、このレジスターで抽出された6例はすべて同一の出典からのものであり、レジスターが「評論」になっているが、内容を見ると、実質的には文学作品の特徴を強く持っている。

- (8) 一會兒，他轉往山坡疾走，菅草葉割破了臉皮，灌木枝劃破腿肌（訳：灌木の枝が腿の皮膚を切り裂く），他卻一無感覺！（『批評與鑑賞』）
- (9) 過了一會兒，老瓦丹已經慢下來了，左手壓住胸口（訳：左手が胸を押える），微弓下上半身，痛苦得根本沒法移步的樣子…（『批評與鑑賞』）

次に多い「新聞」のレジスターにおいては、文学コラムでの例文も見られるが、(10)～(12)のような社会面での使用が目立つ。これらの描写では、容疑者が不明である場合や自然の力が原因である場合が多く、そのため事件に関連する無生物名詞を主語として扱うことが一般的であろう。主格名詞には「自然物」「道具」「機械」など、幅広い範囲が含まれる。

- (10) 桃芝颱風毀壞樟湖風景區（訳：桃芝台風が樟湖風景区を破壊する），但其他風景區或觀光景點並沒有遭受直接破壞…（『中国時報』2001/10/22）
- (11) 廿六日法醫相驗結果，子彈擊中左胸（訳：銃弾が左胸を撃ち抜く）後

沿肋骨深入肺部大量出血致死。(『中国時報』1993)

(12) 不料, 却被霧峰鄉代賴進權拍下挖土機掩埋垃圾 (訳: ショベルカーがゴミを埋める) 的照片, 提出告訴。(『自由時報』1990/12)

「視聴媒体」は主にウェブ記事によって構成されている。このレジスターには、日本の旧2chのような掲示板から収集されたデータが多数含まれており、

(13) (14) といった自作小説、いわゆる文学作品の特徴を持つものがある。

(13) 漲潮時, 海水淹沒泥灘 (訳: 海水が干潟を浸水させる), 退潮後水質又被河水取代, 灘地露出水面, 暴露在空氣中。(蕃薯藤網路)

(14) 突然間, 李文秀聽到了馬蹄踐踏雪地 (訳: 馬のひづめが雪地を踏みしめる) 的聲音。一乘馬正向著這屋子走來。(台灣學術網路BBS站)

「教科書」に関しては、日本語のような科学の原理を説明する例が1例しかなく、国語の教科書に載っている文学作品の例がほとんどである。「学術論文」は2例のみで説明は割愛する。「一般雑誌」「一般図書」については、内容が広範にわたり傾向を把握するのが難しいため、次節でのジャンルにおけるコレスピンドエンス分析を通じて詳細に検討することとする。

6. 出現ジャンル

本節では、日本語と中国語の無生物主語他動詞文が出現するジャンルにおける分布状況をそれぞれ考察する。

6. 1. 日本語

第5節では、日本語の無生物主語他動詞文は「教科書」のほか、「書籍（出版SC）」「書籍（図書館SC）」「ベストセラー」といった書籍類にも多いことを確認した。ここではさらにそのジャンルにおける内訳について考察する。表3は、BCCWJの書籍類3ジャンルにおける分布を粗頻度で集計した結果である。

主格名詞の分布はすでに第5節のレジスターで検討したため、ここではジャンルでの分布に焦点を当てる。全体にわたって、「文学」のジャンルに用例が集中しており、「自然科学」「技術・工学」「歴史」「社会科学」がそれに次いで多いことがわかる。

表3:BCCWJの書籍類3ジャンルにおける無生物主語他動詞文の分布(粗頻度)

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術・工学	産業	芸術・美術	言語	文学	総計
機械	0	0	5	0	2	7	4	0	0	58	76
空間存在	1	2	12	12	12	13	6	6	1	50	115
自然物	1	2	6	4	5	2	0	1	0	69	90
植物	0	2	3	1	4	1	6	3	0	5	25
身体	0	0	1	2	11	1	0	1	0	31	47
道具	0	0	7	2	3	3	1	7	0	62	85
内在機能	0	0	1	5	18	9	1	1	0	13	48
総計	2	6	35	26	55	36	18	19	1	288	486

ここでも調整頻度を検討するが、換算はBCCWJのウェブサイトで公開されたサブコーパス別の長単位語数に基づいて行う。図3の棒グラフでは、「書籍(出版SC)」「書籍(図書館SC)」「ベストセラー」の書籍類3ジャンルの用例を対象に計算された、100万語あたりの調整頻度を示している。

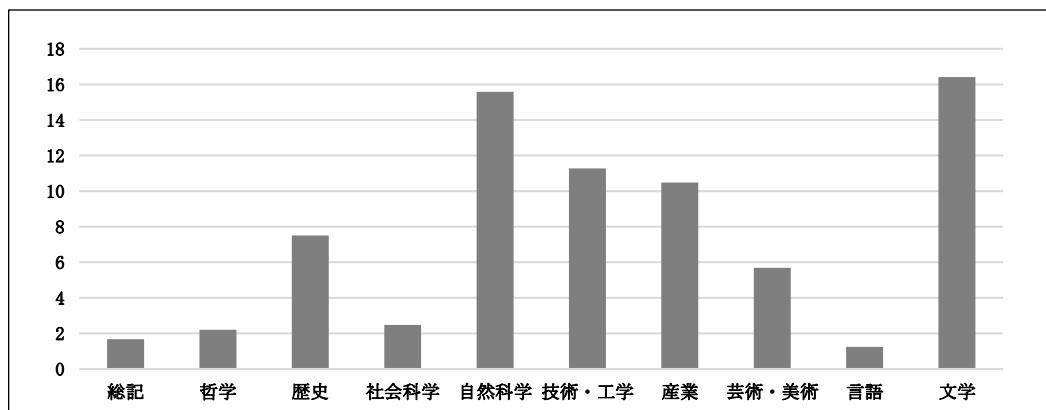


図3:BCCWJの書籍類3ジャンルにおける100万語あたりの用例数

「文学」「自然科学」に用例が最も出現しやすく、次に「技術・工学」「産業」などの順になっていることがわかる。「総記」「哲学」「言語」の用例が少ないのは、これらの分野に具体的な描写が少ないと考えられる。

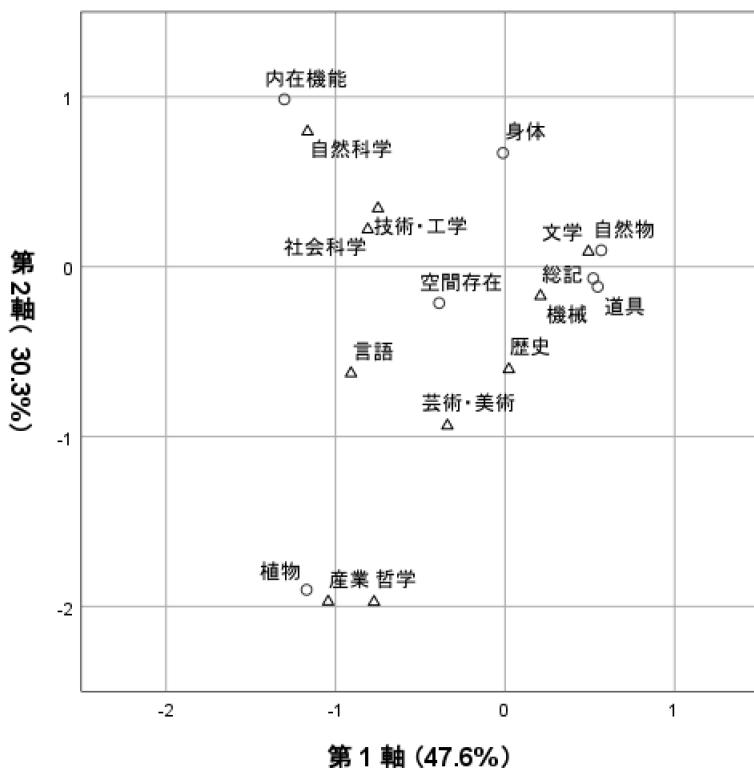


図4：無生物主語とジャンルの関係を示す散布図 (BCCWJ)

ここでは、さらに無生物主語とジャンルの関係を詳しく見るために、コレスポンデンス分析を行う。解析の結果は図4に示す。

まず、ジャンル（散布図の△印）に注目する。第1軸（横軸）において、用例数が極端に少ない「総記」「哲学」「言語」とほぼ中央寄りの「歴史」を除き、右側に「文学」が、左側に「自然科学」「技術・工学」「社会科学」「芸術・美術」「産業」がプロットされている。この違いを「文学的」と「非文学的」に分けることが可能である。第2軸（縦軸）に関しては、上部に「自然科学」「技術・工学」「社会科学」が、下部に「歴史」「芸術・美術」「産業」が位置する。この軸は「科学的」と「非科学的」の違いとして解釈がきそうである。

次に、各ジャンルと関連付けられやすい主格名詞（散布図の○印）を観察すると、大きく「右」「左上」「左下」の3つのグループに分かれていることがわかる。右側の「文学」は粗頻度では様々なタイプの主語が出現するが、散布図では(15)～(17)のような「自然物」「道具」「機械」が相対的に多い。これ

は、行為者が不在であるか、またはその重要性が低い場合に、人間に代わって無生物名詞を主語にして描写する必要性が生じるためと考えられる。

- (15) 風が窓を叩いた。寒さで眼が醒めた。五郎は両手で身体をごしごしこ
 すった。丘の上に黄昏が訪れようとしている。(『サザンクロス流れて』)
- (16) メスが皮膚を裂くときの痛みも、熱さを我慢するのに吸収されてか、
 余り感じなかった。(『家畜人ヤプー』)
- (17) 手榴弾はセフティ・ピンが抜かれ、セフティ・レバーが解放されると
 擊鉄が雷管を叩く。(『劫火』)

次に、左上の「自然科学」「技術・工学」「社会科学」には「内在機能」が多いが、こちらは第5節レジスターの分析における「教科書」と同じ理由によると思われる。実際の用例は(18)のような物質の性質を説明する文章が多い。

- (18) β - カロテンはビタミンAと似た構造をもった物質で、クロロフィル
 が光を吸収するのを助ける。(『生体物質とエネルギー』)

最後に、原点から見て左下方向に位置する「芸術・美術」「産業」の領域に「植物」が配置されているが、これは(19)(20)に示されるように、擬人化された描写や農業に関連する描写が多いためと考えられる。

- (19) 草がからだを曲げて、パチパチ云ったり、さらさら鳴ったりしました。
 霧が殊に滋くなつて、着物はすっかりしめてしまひました。(『風の又
 三郎』)

- (20) 一一月も半ばを過ぎると、奥羽の山脈は紫色に変わつた。樹々たちが
 葉を落とし、冬の季節に身がまるる決意の色である。(『農業新時代』)

「空間存在」は原点に近いが、やや左側に傾いている。粗頻度で見ると、どのジャンルにおいてもある程度の用例が存在する。これは、どちらかといえば「非文学的」であるが、様々なジャンルに満遍なく用例が分布していることを意味している。文学類では(21)のような場面描写が主であるのに対し、非文学類では(22)のように何らかの仕組みに関する説明が多い。

- (21) 燃えたガソリンが細い尾を曳き、黒煙が埠頭を覆い尽くした。(『疾る
 ワン・ナイト・スタンド』)

- (22) ハウスが直射日光をさえぎって、葉が焼けるのを防ぐことができる。
(『みんなの薬草あまちゃづる』)

「身体」は右側の文学類と左上の科学類の間に位置している。文学類は(23)の官能的な表現が、科学類は(24)の人体器官の機能に関する説明が多い。

(23) 宇佐美の手は、あたしの額から頬にうつり耳に触れ、ひとさし指がくちびるをなぞる。 (『パストラル』)

(24) 血管壁が従来のしなやかさを失えば、心臓が血液を押し出したときに血管壁にかかる抵抗は大きくなります。 (『高血圧』)

なお、散布図では第1軸と第2軸の累積寄与率が約80%であるため、この2軸でデータの8割程度を説明でき、分析は適切に行われていると考えられる。

6. 2. 中国語

本節では中国語におけるジャンル分布を考察する。表4は、SINICAのジャンルにおける分布を粗頻度で集計した結果を示したものである。

表4：SINICAのジャンルにおける無生物主語他動詞文の分布（粗頻度）

	哲学	社会	科学	生活	芸術	文学	総計
機械	1	17	3	5	1	12	39
空間存在	2	21	5	12	4	29	73
自然物	3	12	12	5	2	30	64
植物	0	1	5	4	0	6	16
身体	6	9	8	31	8	58	120
道具	1	10	1	15	5	28	60
内在機能	2	6	9	13	3	4	37
総計	15	76	43	85	23	167	409

主格名詞の分布については、第5節で検討されたレジスターの結果と大きく変わらないため、ここではジャンルにおける分布に注目する。全ジャンルを通じて、「文学」に用例が最も多く、その後に「生活」「社会」「科学」「芸術」「哲学」という順で用例数が減少していることが明らかである。念のため、図5で調整頻度を棒グラフで示し、それに基づいて検証を行う。

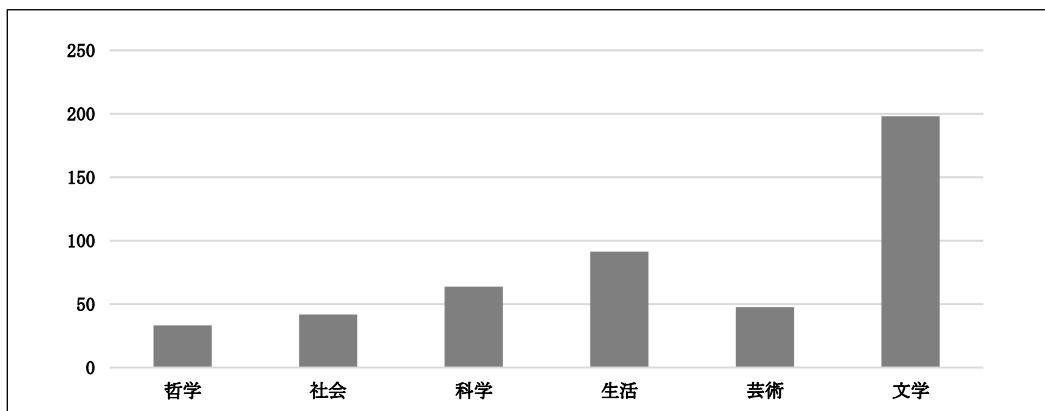


図 5 : SINICA のジャンルにおける 100 万語あたりの用例数

粗頻度の結果と大差はないが、図 5 でも「文学」ジャンルに用例が最も多く、続いて「生活」「科学」「芸術」「社会」「哲学」という順になっている。「文学」に最も多く、「哲学」に少ないのは、日本語と同様の傾向を示している。

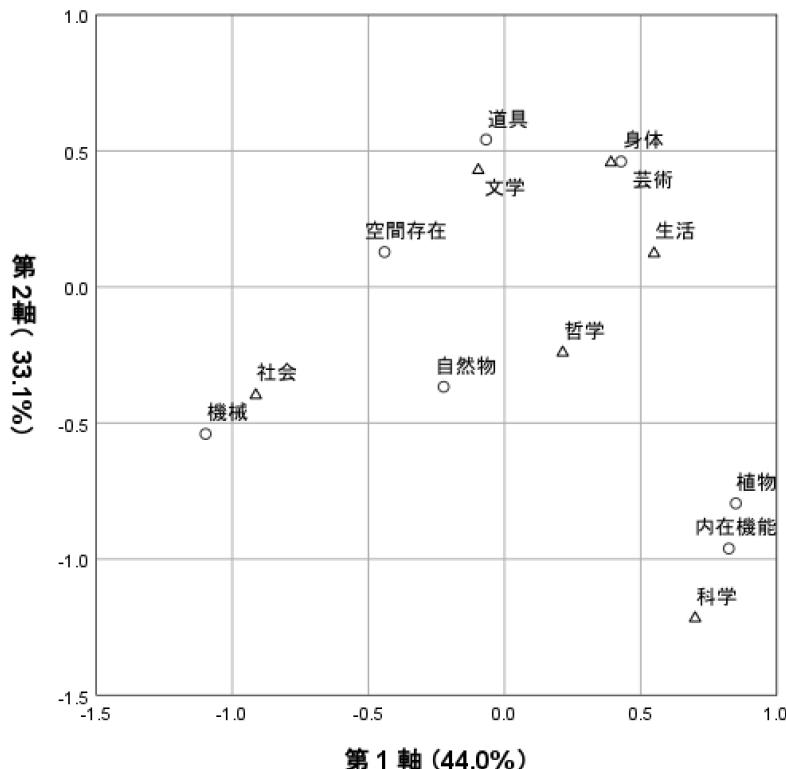


図 6 : 無生物主語とジャンルの関係を示す散布図 (SINICA)

最後に、無生物主語とジャンルの関係を観察するために、コレスポンデンス分析を用いて考察する。その結果は図6に示されている。

まず、ジャンル（散布図の△印）に注目する。第1軸（横軸）では、中央寄りの「文学」を除き、右側に「芸術」「生活」「哲学」「科学」が、左側に「社会」が配置されている。この違いを「社会的」と「非社会的」に分けることができる。第2軸（縦軸）については、上部に「文学」「芸術」「生活」が、下部に「社会」「哲学」「科学」が位置する。この軸は強いて言えば、「文学的」と「非文学的」の違いとして解釈することが可能であろう。

次に、各ジャンルと関連付けられやすい主格名詞（散布図の○印）を観察すると、「左」「右下」「右上」の3つのグループに分かれていることがわかる。左側の「社会」には「機械」がプロットされており、具体的な例は(25)のように、機械トラブルに伴う社会事件の記事が挙げられる。これらは事故であり、意図性がないため、人間を主語にすることが避けられると考えられる。

(25) 失事原委，一是發動機吸入飛鳥（訳：エンジンが鳥を吸い込む），一是飛行員空間迷向。（『中国時報』2001/11/15）

右下の「科学」には「植物」「内在機能」が集まっている。この部分の例は(26)(27)に示すように、いずれも科学的原理を説明するミクロな描写であり、日本語と類似した傾向を見せてている。

(26) 森林毀滅，不但樹木無法吸收二氣化碳（訳：樹木が二酸化炭素を吸収する），進行光合作用，向大氣層釋放氧氣。（『天下雜誌』1995）

(27) 初春因為氣溫仍低，加上陽光重新照耀該地區，是氟氯碳化合物消耗臭氣（訳：フロンガスがオゾンを消耗する）的最佳時機。（『清蔚園』）

右上の「芸術」「生活」には「身体」が配置されている。(28)(29)のように、体操や楽器演奏の説明など、身体の一部に焦点を当てた描写が多い。

(28) 雙腳掌緊貼地面（訳：両足が地面に接触させる），身體側旋轉，兩手扶牆，維持20秒後換邊。（『中国時報』2003/02/21）

(29) 你可以調整手指的角度，指尖觸弦（訳：指先が弦を触れる）是靠外側，置中或是內側，根據你自己的狀況來作調整。（『中國樂器改良之隨想（三）』）

「文学」は、粗頻度では様々な無生物名詞が主語として用いられるが、散布図では「道具」に関わる例が相対的に多い。(30)のように道具にズームインし

ている描写が顕著である。

(30) 原來箭射中鈕扣 (訳: 矢がボタンに命中する) 而已。大家很高興的圍繞在溫蒂身旁, 而珍嘉也因此被趕出家門。 (『小飛俠』)

図6において, 第1軸と第2軸の累積寄与率は日本語と同様に約 80%であるため, 分析が適切に行われていると考えられる。

7. おわりに

ここまで考察をまとめると, 以下のようになる。レジスターについて, 日本語では「教科書」での科学原理の説明が, 中国語では「評論」での文学描写と「新聞」での社会記事が目立つ。ジャンルに関して, 日中ともに「文学」に用例が出現しやすく, 「哲学」に出現しにくいことが観察された。また, コレスポンデンス分析によると, 出現環境が「文学的か否か」が両言語の当該構文の成立に影響を与える共通の要因である一方, 日本語では「科学的か否か」, 中国語では「社会的か否か」がそれぞれ個別の要因として働いていることがわかった。なお, 各用例には出現レジスターとジャンルに応じて, 動作主が不明であるなど, 無生物名詞を主語として取り立てる理由が存在することも明らかになった。ただ, 本稿では具体的な描写に限定した調査であるため, 抽象的な描写における分布も検討する必要があると考えられる。これは今後の課題とする。

注

- 1) SINICA では「媒体」と表記されるが, 本稿ではBCCWJに合わせて「レジスター」と称する。また, 元のタグ名は中国語であるが, 一部を日本語に翻訳し, 表記も日本語のものに変更している。
- 2) 表記を日本語のものに変更している。
- 3) 「白書」「国会会議録」には該当例が存在しないため, 表に示されていない。
- 4) 「実用書」「会話インタビュー」「演説」には該当例が存在せず, また「その他」は分析データとして意義を持たないため, いずれも表に示されていない。

参考文献

石綿敏雄・高田誠 (1990) 『対照言語学』 桜楓社

- 金田一春彦 (1981) 『日本語の特質』 日本放送出版協会
- 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表 (増補改訂版)』 大日本図書
- 角田太作 (1991) 『世界の言語と日本語』 くろしお出版
- 外山滋比古 (1973) 『日本語の論理』 中央公論社
- 麻子軒 (2016) 「連語論的アプローチによる無生物主語他動詞文の日中対照—コレスポンデンス分析による成立要因の検討—」『計量国語学』 30(7):395-416
- 麻子軒 (2017) 「連語論的アプローチによる無生物主語他動詞文の日中対照—対格名詞が事名詞である場合—」『阪大日本語研究』 29:43-70
- 麻子軒 (2018) 「連語論的アプローチによる無生物主語他動詞文の日中対照—対格名詞が人名詞である場合—」『阪大日本語研究』 30:71-92
- 熊鶯 (2009) 『鍵がドアをあけた』 笠間書院

(関西大学留学生別科特任常勤講師)